



目次

はじめに

さまざまな生きものが網の目のようにつながりを持ちながら生きていることを「生物多様性」といいます。衣・食・住など私たちの暮らしは、これら生物多様性の恵みによって支えられています。私たちの豊かな暮らしをこれからも持続させていくためには、生物多様性の保全はとて重要で重要です。

2011年3月、石川県は、生物多様性保全のための取り組みのよりどころとなる「石川県生物多様性戦略ビジョン」を策定しました。この戦略ビジョンは本県の生物多様性を特徴づける「里山里海」の保全・利用を中心とした内容となっており、「里山里海における新たな価値の創造」や「多様な主体が参画した新しい里山づくり」などの重点戦略を掲げています。

人と自然の関わりの中で育まれた里山里海の生物多様性は、持続可能な形で利用・管理することによって保全していくことが大切です。そのためには、里山地域に暮らす住民だけでなく、外部からの参画も得て、みんなで里山づくりを行っていくことが必要になります。

そこで県では、企業やNPO、学校など、より多くの方々に里山づくり活動に参加していただくため、「いしかわ版里山づくりISO」制度を創設しました。

これは、農地や森林の整備、生きものの保全活動、海岸清掃など、企業や団体などが行う里山里海の保全・利用のための取り組みを県が認証するものです。県では、各認証団体の里山づくり活動に関する情報発信や、活動に必要な道具の貸し出し、講師の派遣などの支援を行っています。

現在、300の企業・団体・学校を認証しており、今回、認証団体の活動の一部を紹介する冊子を作成しました。この冊子が、里山づくり活動のさらなる発展や、新しく里山里海へ関わるきっかけとなり、石川の里山づくり活動の輪が、ますます広がっていくことを期待します。

2019年3月
石川県生活環境部温暖化・里山対策室

【県の取り組み】

- いしかわ版里山づくりISO 3
- いしかわ里山ポイント制度 4
- いしかわ版CO₂削減活動支援制度 4
- 石川の森整備活動CO₂吸収量認証事業 4

【コラム】

- 国連大学と石川県の生物多様性の保全活動の歩み 5
イヴォーン・ユウ(国連大学サステナビリティ高等研究所)

【いしかわ版里山づくりISO団体活動紹介】

- 次世代につなげていける里山里海資源の活用 7
[No.47] NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海
- 白山市美川地域の自然環境保護・啓蒙活動 8
[No.59] 美川自然人クラブ
- 河北潟の生物多様性を守ろう 9
[No.65] NPO法人河北潟湖沼研究所
- 「残したい、伝えたい、ふるりの自然、ふるりの歴史」 10
[No.86] 「風土記の杜」づくりの会
- エコー、行こう、笑顔、癒しの森 11
[No.88] NPO法人世界の砂漠を緑で包む会
- 「おくりび山ジェイ・バスの森」整備事業 12
[No.95] ジェイ・バス株式会社
- 朱鷺が舞う能登の里 粟津をめざして 13
～ドジョウを増やす取り組みを支えるお米の販売へのチャレンジ～
[No.118] 粟津村おこし推進協議会
- 里山里海を育む人の和 14
[No.154] 田岸里山里海倶楽部
- 縄文時代から続くウルシの森と日本の文化である漆芸文化を次の世代に受け継ぎたい 15
[No.263] 輪島漆「集いの森」
- 豊かな自然を活かし、元気あふれたまちづくり 16
[No.283] 株式会社白山瀬波
- 「知・育・活」の実践を通し魅力ある里山づくりを目指して 17
[No.287] こまつSATOYAMA協議会
- きらめ樹間伐・自然米・海岸清掃と子ども恵みの里づくり 18
[No.290] 万葉の里山づくり友の会
- ドコモの自然環境保護活動 19
[No.295] 株式会社NTTドコモ北陸支社

- 【いしかわ版里山づくりISO認証団体一覧】 20

いしかわ版里山づくりISO

いしかわ版里山づくりISOは、里山里海の保全・利用に対する組織の取組方針を認証する制度です。すでに活動を行っている方はもちろん、これから活動を始めようとしている方も認証を受けることができます。

里山づくり認証の対象となる活動の例

- ・里山の田んぼ・畑づくり支援活動
- ・里山の森づくり支援活動
- ・里山の生きものを守り育てる活動
- ・里海づくり支援活動
- ・里山の集落コミュニティの活動
- ・里山の外来生物駆除活動 など

特徴

企業、NPO、地域団体、学校など、幅広い組織の方々を対象です。認証手続きが簡素であり、また、認証のための費用は不要です。

メリット

【全体のメリット】

- ・顧客や取引先などからの社会的な信頼性が向上します。
- ・県の里山関連施策の情報がいち早く得られます。
- ・里山づくり活動などに対する専門家の派遣が受けられます。
- ・活動に必要な道具の無料貸し出しがあります。
- ・認証団体が主催するイベントにおいて、参加者にいしかわ里山ポイントを配布することができます。

【建設業者のメリット】

- ・石川県建設工事競争入札に係る主観点数の加点があります。

【非営利団体のメリット】

- ・いしかわ版CO₂削減活動支援制度を利用して支援金を受けることができます。

【学校のメリット】

- ・優れた里山づくり活動を実践する優良校として補助金を受けることができます。

いしかわ版里山づくりISO公式ホームページ



<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/iso/ontaiiso.html>

いしかわ版里山づくりISO公式Facebook



<https://www.facebook.com/Ishikawa.SatoyamaISO/>

いしかわ里山ポイント制度って何?

里山での田んぼや畑の草刈り、植林などの森づくり活動といった里山の保全活動を主催する際、参加者に里山ポイントが配布できます。参加者はポイントを、金券として使用可能な「里山チケット」と交換できます。

- 里山ポイント対象活動や里山チケットが使えるお店についてはこちら



<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/point/seido.html>

- 貴団体が主催する里山保全活動を里山ポイントの対象としたい場合はこちら



<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/ontai/point/bosyu.html>

いしかわ版CO₂削減活動支援制度って何?

NPOやボランティア団体などが行う森林整備活動に協賛いただける企業(協賛金額・10万円以上)を募集し、その協賛金を、これらの非営利団体の活動への支援金(1団体上限5万円)にあてる制度です。

協賛企業は、自社商品・広告等にロゴマークを使用することができます。消費者(県民)は、ロゴマークを使用している企業の商品を購入することで、団体の森林整備活動を支援することができます。



支援金の内容

区分	事業内容	支援金	要件
①CO ₂ 吸収量認証事業支援金	植栽、下刈り、除伐、枝打ち、間伐	上限5万円	「石川の森整備活動CO ₂ 吸収量認証事業」において、県からCO ₂ 吸収量の認証を受けること。
②森林整備活動等支援金	植栽、下刈り、除伐、枝打ち、間伐およびこれらに準じる活動	上限2万円	

※いずれの支援金も、県の「いしかわ版里山づくりISO」の認証を受けている、または、認証の申請がなされている、営利を目的としない団体が対象(企業は対象外)

石川の森整備活動CO₂吸収量認証事業

企業や団体などが、県内で社会貢献活動として整備した森林について、1年間に吸収すると考えられる二酸化炭素の量を数値化して、証書により認証する制度を実施しています。

証書は、環境貢献、社会貢献活動の証しとして広く広報活動に用いることができます。

森づくりをはじめたいけれど、活動できる森林を持っていない企業・団体の方は、お気軽にお問い合わせください。県では、活動フィールドの仲介や技術的指導等を実施しています。

詳しくは、

石川県企業の森づくり

検索





国連大学と 石川県の 生物多様性の 保全活動の歩み

国連大学と石川県の生物多様性の保全に関する連携は、2010年に日本が議長国を務めた生物多様性条約第10回締約国会議(CBD COP10)にまで遡る。同年10月に開かれた国連大学などの主催による里山里海をテーマにしたCOP10サイドイベント「里山知事サミット」での谷本知事の講演をはじめ、同年12月には国連が定めた「2010年国際生物多様性年」を記念するクロージングイベント、そして翌年12月には「国連生物多様性の10年(2011~2020年)」開幕式典を開催するなど、石川県は生物多様性に対して高い関心を持ち、生物多様性の世界的議論と促進に積極的に貢献してきた。そのような石川県の活動と共に、国連大学は、COP10の決定で採択されたSATOYAMA イニシアティブの事務局として勤め、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPS)における活動や、2008年に金沢市で設立した国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット(OUIK)の研究活動を通じ、様々な形で石川県の生物多様性や里山里海の保全・活用活動において、地元の皆様方と協力を図ってきた。

石川県から「SATOYAMA」「SATOUMI」の概念を世界へ

「SATOYAMA(里山)」「SATOUMI(里海)」を、人間の関わりによって自然環境の豊かさと生物多様性が維持される、自然と人間が共生するという日本発の概念として

世界に向けて発信するために、OUIKはCOP10期間中に能登地域を日本の里山里海のモデルケースとして紹介した。国内外から能登地域の里山里海の豊かさと素晴らしさへの評価と再認識をいただいた経験は地域の方々にとって大きな自信となり、2011年にOUIKとの協力で申請した「能登の里山里海」の国連食糧農業機関(FAO)による世界農業遺産認定にもつながった。「認定がゴールではなくスタート」をモットーとし、認定後、OUIKは地域の関係者とともに、能登世界農業遺産の活動計画の改定や「能登の里海ムーブメント」などの研究や活用活動に取り組むほか、東アジア農業遺産学会の日本事務局としても農業遺産地域間の国際交流を図り、石川県内での里山里海や生物多様性保全に関わる取り組みを研究や国際発信の面から支援してきた。

「生物文化多様性」と「持続可能な目標」の概念を用いた新たな展開

2014年からは白山ユネスコエコパークにも参画している。「能登の里山里海」世界農業遺産、白山ユネスコエコパーク、金沢のユネスコ創造都市ネットワークなどの国際ネットワークを、自然と人の文化を活用した統合的な地域モデルとして捉え、「生物文化多様性」という概念を提案し、持続可能な社会を形成するアプローチとして、「ユネスコ創造都市ネットワーク会議金沢2015」の開催に合わせて国際シンポジウム「石川・金沢生物文化多様性圏 豊

かな自然と文化創造をつなぐ いしかわ金沢モデル」を開催した。2016年には、ユネスコ、生物多様性条約事務局、石川県、七尾市とともに、アジアでの初開催となる第一回アジア生物文化多様性国際会議を開催し、その後も生物文化多様性をめぐる国際的な議論では、アジアの地域モデルとしての発信を続けている。また、2017年からは日本伝統文化と生物多様性に触れあう「金沢市の日本庭園ワークショップ」の開催や、アートと音楽を通じて生物多様性の保全を体験する「MISIAの里山ミュージアム」イベントの協力など、様々な角度から県民に生物多様性に親しみ、分かりやすく知ってもらう活動に取り組んでいる。

10周年を迎えた節目の2018年に、OUIKは1年にわたり、これまでの活動を発展的に総括し、国連が定めた「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進するため「SDGsいしかわ・かなざわダイアログ」と銘打ったリレーイベントを実施し、生物多様性などの自然資本に立脚した石川県らしい持続可能な社会づくりを目指した。

目的地が遠いといえど、継続は力なり

「愛知目標」の達成年であり「国連生物多様性の10年」の最終年にもなる2020年に向けて、2018年に石川県の共催で第7回IPS定例会合が開催され、国内外の参加者約100名はSATOYAMAイニシアティブの生物多様性戦略計画2011-2020や愛知目標、SDGsなどへの継続的、潜在的な貢献について議論を深めた。同会合では、こ

れらの議論を踏まえた「石川声明」に合意し、愛知目標への貢献やポスト2020年に向けての意気込みと決意を新たにされた。

生物多様性の保全活動自体が長いスパンをかけなければその効果が見えないことだけに、多様な主体の参加による連携を長期的に継続していく必要がある。国連大学が「SATOYAMA」という言葉を「自然と共生する」概念として世界に向けて発信し、広く知られるようになるまで定着させられた背景には、石川県の多大な協力がある。また近年、環境保護区以外にも里山里海のような農漁村地域や、さらに都市とつなぐ地域循環共生圏における生物多様性の保全効果がますます注目される中で、石川県のこれまでの里山・里海づくり活動が、ポスト2020年の枠組みづくりにおいて参考にされている。国連大学は今後も、石川県とともに生物多様性の保全に尽力させていただきたい。



イヴォーン・ユー(Evonne Yiu)

シンガポール出身。東京大学農学博士。2011年に国連大学サステイナビリティ高等研究所に入所。SATOYAMAイニシアティブ研究員として国内外の里山里海地域における生物多様性の保全について発信と研究。国連大学OUIKにも所属し、「能登の里海ムーブメント」など国内外の世界農業遺産の技術的支援と研究の活動にも取り組む。

おらっちゃんの手で、豊かで貴重な自然環境を守る

珠洲を含めた奥能登には、豊かで貴重な自然環境が残されています。これらの環境を保全し、里山里海でのくらし文化を伝承することで、地域内や都市間での交流の活性化を図り、誇りある地域の創造を目指すと同時に、大学などと連携協力し環境調査や保全活動などを支援することを目的に活動を進めてきました。

2018年10月27・28日 設立10周年を祝うイベントを開催

2008年8月25日に設立した当法人は、2018年に設立10周年を迎えました。節目の年を迎えるに当たり、10月27日と28日の二日間、この10年間を支えてくれた方々を招き、10周年記念事業を実施しました。27日は、設立当初から毎年続けてきた植林活動「おらっちゃんの森づくり」と、夜は記念パーティーで10周年を祝いました。翌28日はシンポジウムを開催し、新たに決めたロゴマークを発表。これまでの活動を振り返り、これからの10年につなげていくことを誓いました。



シンポジウムであいさつする加藤理事長

里地・里山から里海へ、活動の場を広げる

活動の場はこれまで、保全林やため池、ピオトープなど、里地・里山が中心でした。ホダ木を伐採してのシイタケ栽培、ため池でのじゅんさい採取、ピオトープでのコメの栽培と生きもの観察など、地域の方の協力をいただきながら活動を進めてきました。

3年前から、ようやく団体名にも含まれる里海へ活動の場を広げ始めています。小学校と連携した海岸清掃と漂着ごみの調査、釣り大会など、海に親しみながら「守る」気持ちを育てていきたいと考えています。



設立当初から続けている植林活動



おらっちゃんの里海クリーンビーチ

お問い合わせ先

氏名	加藤 秀夫(理事長)	所属	NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海
住所	〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊33-7		
電話	0768-88-2528	F A X	同左
E-mail	satoyamasatoumi2006@gmail.com	H P	http://www.satoyama-satoumi.com

活動の背景と目的

平成15年、地域に生息する絶滅危惧種の淡水魚「トミヨ」が、当時の美川町と石川県の天然記念物に指定されたことをきっかけに、その保護活動を主目的に美川自然人クラブを結成した。トミヨの他に、南半球から飛来する「コアジサシ」や北太平洋から回帰する「シロザケ」などが美川地域で見ることが出来、その他にも、魚類・鳥類などの生き物の種類が他の地域に比べてとても多いことがわかり、その自然豊かな地域の環境を守り、子供たちに知ってもらおうと活動が始まりました。



トミヨ(はりんご)

活動内容

- 希少種トミヨ(はりんご)の保護活動、自然保護啓発活動、動植物(希少生物)の調査・研究活動、地域住民への啓発活動、まちづくり意識の醸成
- 行政機関への提言(提案)、自分たちの手によるまちづくり
- 付近の小学校の野外授業の指導を行う(子供たちが実際に安産川に入り、トミヨ等の生き物を捕獲し、観察を行う)
- 石川県立大学の野外実習に協力
- 毎年2回、地元町内会と協力して、安産川の清掃活動を実施

経歴及び実績

- 1993年5月 まちづくりグループ「はりんご塾」が発足
- 1998年5月 「はりんご自然教室」を開校
- 1999年4月 トミヨ(はりんご)増殖池を造成
- 1999年8月 第1回手取川親子ふれあい自然観察会を開催(2018年第20回開催)
- 2004年1月 トミヨ(はりんご)生息地が、石川県の「天然記念物」に指定
- 2004年3月 はりんご塾メンバーを主体として、トミヨ(はりんご)の保護等の実践活動を行う「美川自然人クラブ」を結成する。
- 2007年5月 石川県生き物キッズレンジャー活動の初回支援団体となる。
- 2011年4月 いしかわ版里山づくりISO認証団体に登録される。
- 2014年6月 NHKさわやか自然百景「石川手取川扇状地」の撮影協力(トミヨ・コアジサシ・バイカモ) 8月31日(日)放送
- 2017年6月 手取川扇状地の湧水減少による「トミヨモニタリング調査」を開始
- 2017年11月 石川県教育委員会より、心の教育推進感謝状を授与される。



はりんご自然教室

活動の成果

「はりんご自然教室」や「手取川親子ふれあい自然観察会」を20年以上継続実施しているので、地域住民の「トミヨ」への認知度や感心が高くなって来ている。トミヨの他にも魚類や鳥類などの種類が極めて多いことをもっと知ってもらいたいと活動を続けています。

お問い合わせ先

氏名	藤木 克彦(理事長)	所属	美川自然人クラブ
住所	石川県白山市平加町		
電話	090-1312-7470		
E-mail	fujiki@tabisuru.com	H P	https://mikawa-mnc.wixsite.com/mikawa

背景と目的

わたしたちは河北潟の環境改善を願って1994年に発足した団体です。河北潟周辺の水辺や農地を調べたところ、ひと昔前にふつうに見られた野生生物が激減していることがわかりました。河北潟の環境を改善するには、湖だけでなくその周辺の環境も重要です。大規模に環境を改変した干拓事業や、戦後急速に普及した農業だけでなく、近年の変化にも大きな原因があると考えています。田んぼでは広範囲でネオニコチノイド系農薬等の殺虫剤の空中散布、除草剤が使用されており、これらの生態系への影響が懸念されます。

「生きもの元気米」誕生

田んぼの元気を見守って農薬を減らす仕組みを考え、「生きもの元気米」は誕生しました。①殺虫剤の空中散布+ネオニコチノイド系農薬を含む浸透性殺虫剤を使用しない。②畦に除草剤を散布しない。この2つの条件で農家と契約し、田んぼごとに生きもの調査をして、認証を行っています。



田んぼ一枚ごとの調査から

生きもの調査により、田んぼごとに違いがあることがわかりました。比較のために慣行農法の水田でも調査をおこなっていますが、農薬不使用の水田ではバッタ類などサイズの大きい昆虫類が多くみられるのに対し、慣行農法の水田では数ミリ以下のハエ類を主とした昆虫類が多く、益虫となる種群が少ないといった傾向が確認されています。



農薬不使用(左)と慣行農法(右)の水田で採集された虫(2013年7月)

NPOのビジョン

「生きもの元気米」は、田んぼごとに袋詰めし、田んぼのファンができるよう取り組んでいます。消費者も田んぼの環境を見守る一員となります。生きもの元気米は、色々な応援をいただいて、少しずつ広がっており、平成30年産では、9枚の水田で約6.5トンが生産されました。わたしたちの活動のビジョンは、地域に活力を与え続ける「河北潟」の実現です。農薬に頼らない農業が推進され、河北潟の流域全体が健全になることを目指します。

お問い合わせ先

氏名	川原 奈苗	所属	NPO法人河北潟湖沼研究所
住所	〒929-0342 石川県河北郡津幡町北中条ナ9-9		
電話	076-288-5803	F A X	076-255-6941
E-mail	na.na@amail.plala.or.jp	H P	http://kahokugata.sakura.ne.jp/

活動開始に至る経緯

加賀市分校町内の国道8号線沿いには前方後円墳を含む70基以上の古墳が点在する分校古墳群があります。昭和46年の大聖寺高校郷土研究部による調査で貴重な中国後漢製の銅鏡を始めとする多くの古墳副葬品が出土しました。これを機会に、分校町有志8名による古墳群整備活動が始まりました。その活動に対する理解、支援の輪が広がり、平成15年、「分校地区史跡保存会」として組織活動が本格化しました。平成21年、史跡等整備の実働部隊としてより軽快に活動を推進し、里山の歴史を含めた自然や景観などを幅広く発信するため、分校支部に特別部会として「風土記の杜」づくりの会が設立されました。

活動内容

1 定例作業

総会で決定した年度計画に基づき、4月から12月までの各月2回、定例作業を実施しています。作業内容は、雑木の除伐、雑草の下刈り、植栽等、多岐にわたります。

2 古墳管理

古墳群である前山、チハカ山遊歩路の新設、補修作業を行っています。

3 ササユリの植生回復

県レッドブックの準絶滅危惧種のササユリの植生回復作業を推進し、植生が回復しつつあります。

4 その他のコミュニティ活動

(1) ササユリ観察と里山散策の集い

毎年6月初旬、ササユリ観察会を行い、広く一般の方々、分校小学生に対して、ササユリと共に分校古墳群をガイドしています。

(2) チハカ山の思い出づくり

毎年6月中旬、地区の清心こども園児親子に対して里山について興味、関心をもってもらう動機付けをしています。

(3) 加賀市による前山6号墳の探査

平成29年にレーダー探査、平成30年に電気探査が実施され、埋蔵物の有無について調査されつつあります。調査結果に期待しているところです。

課題等

1 活動費用

87名の会員からの会費が基本ですが不十分であり、県等の補助が必須です。

2 構成人員

新入会員の確保が難しいため会員平均年齢が上昇傾向となり、整備作業に影響が出始めています。コミュニティ活動を通じて会員確保活動を推進しています。



お問い合わせ先

氏名	松木 一雄(幹事)	所属	「風土記の杜」づくりの会
住所	〒922-0304 石川県加賀市分校町リ21		
電話	090-2837-2212		
E-mail	matsu-070407-ok@softbank.ne.jp		

当会は1998年4月に中国 ゴビ砂漠の東南部で緑化活動を始めたのがスタートで、名称もそこから付けたものです。

砂嵐・黄砂の発生で、日本でも話題になる世界4位の広大な砂漠に小さな苗木を根付かせ、努力を重ねた結果、今では中国政府も本腰を入れ、200kmのグリーンベルト地帯にすべく緑化に拍車がかかっています。昨年からは、エチオピアの荒廃した乾燥地を緑化して、住民が農産物を生産出来るようにするプロジェクトを始めました。今後が楽しみな事業です。

一方、国内では平成23年8月から、津幡町の「石川県森林公園」内の一部を県と協定を結び整備し、必要に応じた植樹を行う作業をしています。協定上の面積は14ヘクタールだが、対応できない場所もあるため、その半分ほどを対象として活動しています。

場所は桜園に隣接する、サイクリングロードの両側となります。笹・葛のつる、枯れた大きな松の木、不用と思われる小木、等々。ジャングル状態の自然林を切り開き、笹は年2回程刈払い、3年程であまり生えなくなりました。その間にモミジ林を創るため、60本程植え、下刈りを繰り返しました。

さらに、ドングリが実を付け、カブトムシが寄ってくるコナラ・クヌギの外にサクラを植えました。以後毎年、サクラを植えて下刈りを繰り返した為、笹は一部を残して無くなり、春にはスミレ・ササユリが咲くようになり、秋には大きくなったモミジが真っ赤に色づき、とても綺麗な森になって来ました。是非見に来て下さい。お待ちしております。



下刈り作業



親子で桜を植林

お問い合わせ先

氏名	大沢 俊夫(会長)	所属	NPO法人世界の砂漠を緑で包む会
住所	〒921-8015 石川県金沢市東力2丁目26番		
電話	090-2833-0038	F A X	076-292-0038
E-mail	tutumkai@vmail.plala.or.jp		

活動の目的

私たちジェイ・バスは人びとの「移動」を支えるバスを生産する企業として、環境保全活動に取り組んでいます。この活動は、地元小松市にある「おくりび山」の森林整備活動です。森林整備によるCO₂の低減、地域との交流・活性化、企業の社会的責任を果たすため、2009年より県、市、町と協力して活動に取り組んでいます。

活動のねらい

「森を守ろう・育てよう・楽しもう」をスローガンに地域と社員、その家族と共に「おくりび山」の環境を知り、学び、体験の場を通して、一人ひとりが「環境と人を大切にする」意識を高めることをねらいとしています。

活動内容

「おくりび山」は、多目的施設「せせらぎの郷」の隣にあり、面積は約30ヘクタールあります。当社従業員と、その家族、県、市、地元瀬戸町住民と共に、総勢300名程が年2回(春、秋)里山の森林整備に取り組みます。現在10年間継続して活動しています。

【主な活動】

- (雑木活用) 薪割り作業、シイタケのホダ木作り
- (展望台整備) ベンチの設置
- (遊歩道整備) 階段・ロープ手すりの設置、案内板の設置
- (植樹活動) おくりび山散策コースに抵抗性アカマツの苗植樹
- (自然体験) サツマイモ収穫・焼き芋体験、里山散策、木工クラフト体験



「おくりび山ジェイ・バスの森」整備事業



シイタケのホダ木作り



階段・ロープ手すりの設置



アカマツの植樹

お問い合わせ先

所属	ジェイ・バス株式会社 小松工場		
住所	〒923-8575 石川県小松市串町工業団地30番地		
電話	0761-44-8610	F A X	0761-44-8651
E-mail	H P http://www.jbus.co.jp/		

粟津村おこし推進協議会



朱鷺が舞う能登の里 粟津をめざして
～ドジョウを増やす取り組みを支えるお米の販売へのチャレンジ～

活動をはじめた背景や目的

粟津村おこし推進協議会は、珠州市三崎町粟津地区の里山里海を守るため、平成22年に設立した地域団体です。手入れ不足によって広がってきた竹林を整備し、耕作放棄地の増加を防ぐための米作りや、美しい海岸線を守り環境保全に努めるなど、農村の風景や環境を維持する取り組みに、力を注いできました。取組を進める中で珠州市に朱鷺が飛来するようになり、私たちの田んぼにも訪れるようになりました。このことをきっかけに、珠州市で環境保全に取り組むNPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海と協力し、朱鷺の住める環境づくりに取り組みました。2015年から3年間で、公益信託サントリー世界愛鳥基金の支援を受け「トキの舞う能登の里山里海創出プロジェクト」事業に取り組みできました。特に、朱鷺の好物であるドジョウが、自然に増える環境を作るために、水路の段差の解消や、田んぼにあがるための魚道の設置を進めてきました。2018年からは米の独自販売に取り組み、売り上げの一部で粟津地区の里山里海を守る活動を継続・発展させていきたいと考えています。



田んぼでドジョウを食べている朱鷺

具体的な内容

粟津地区の田んぼと周りの水辺では、ドジョウ、メダカ、トンボ、トノサマガエルなど約140種類の水性動物が暮らしています。ドジョウ田は、除草剤不使用、農薬と化学肥料の使用を標準の半分以下に減らして栽培しています。2018年の検査で米の残留農薬の数値はゼロでした。その他に、荒廃した竹林の整備の際に伐採した竹で灯籠を作り、砂浜に並べて灯りをともす取り組みや、冬のサーフィン大会で景品に米を使用するなど、里山と里海の繋がりを感じられるような活動にも取り組んでいます。

これからも、粟津地区の豊かな自然を守り、環境の維持・保全を続け、里山里海づくりの活動を推進していきます。



奥能登 粟津のお米

お問い合わせ先

氏名	千谷 健一	所属	粟津村おこし推進協議会
住所	〒927-1452 石川県珠州市三崎町粟津壹四部		
電話	0768-88-2168 (担当:角野)	F A X	0768-88-2168 (担当:角野)
E-mail	awadumuraokoshi@gmail.com	H P	https://awazu-muraokoshi.jimdofree.com/

田岸里山里海倶楽部



里山里海を育む人の和

活動の背景・目的

七尾市の最北に位置する小さな農村集落です。小さくとも活気のある集落を先人たちが育て、培ってきた「田岸」。それを次世代につなぐ者として、風光明媚な自然を活かし、里山里海の保全をキーワードにして、他に誇れる集落にしようとして平成24年に「田岸里山里海倶楽部」を組織しました。

町会に住むほぼ全員を会員とし、全員参加型による活動をめざしています。しかしながら、町会内のみでは次世代に継承できない事業もあり、外部の方々との交流・連携も行っています。



海から眺める田岸集落

活動内容

古き良き伝統行事にイノベーションを付加し、時代にマッチした内容への充実を図り、新しい風も取り込みながら、各人の得意技を最大限に活かしています。特に、伝統の祭りには大学生達の手も借りています。農地維持などには国の制度を活用しています。

さらには、集落愛の醸成をめざし、海岸清掃、花いっぱい運動、田んぼの上の鯉のぼり、季節のミニ飾り、山林再生などに取り組んでいます。

成果・実績

町会民全員が何らかの行事に参加することで、集落内の状況、課題、目標の理解浸透が進み、さらには、心の豊かさ、安心できる生活環境の維持・向上が図られたと感じています。

強いては、集落愛の醸成が進み、さらに熟度が高まり、人の和が強固になったと感じています。

ビジョン

「継続は力なり」のごとく、課題は多いですが、その時々でのイノベーションで事業の継続をめざします。

また、外部から新しいアイデアの提案を頂き、町会民の生きがいを創出する「オリジナル商品や事業」など経済活動への発展をめざします。



海岸掃除



田んぼの上の鯉のぼり



間伐見学会

お問い合わせ先

氏名	丹崎 勝雄	所属	田岸里山里海倶楽部
住所	〒929-2212 石川県七尾市中島町田岸へ-12		
電話	0767-66-1647	F A X	0767-66-1647
E-mail	tanzaki@yu.incl.ne.jp		

輪島漆「集いの森」



縄文時代から続くウルシの森と日本の文化である漆芸文化を次の世代に受け継ぎたい

ウルシや漆器に使う木、集って楽しめる木を実際に育て、楽しみながら、地域振興に貢献する。

設立の経緯

2011年、輪島漆再生プロジェクト実行委員会が、勉強会の開催を始め、志のある人々が集まった。現在、国産漆をめぐる状況は厳しく、日本で使われている漆の約98%は中国産漆で、わずか2%が日本産漆という現実がある。輪島では、古代から、ウルシの木を育て、税として納めてきた。また、アテの木等も、奥能登で広く植林されてきたが、これらの環境が、後に、輪島塗という産業を生み出す母体になった。奥能登の里山では、田畑の畔にウルシの木が植えられ、農家や林家の人たちは、「お金になる木」として、ウルシを大切に育ててきた。

しかし、昭和30年代から40年代にかけて、漆掻きの生業が成り立たなくなり、それと共に、ウルシの木も消えていった。日本産漆と中国産漆は、DNAに少し違いがあり、日本産漆の方が、主成分のウルシオールが多く、丈夫で、美しい塗膜の漆器を生み出す事ができる。漆器を作る職人としては、日本産漆を絶滅させたくない、という思いがある。Japan輪島復興実行委員会の事業で、輪島漆の苗を大量に育てた事がきっかけになり、山を開墾する必要が出てきた。同じ集落内で、耕作放棄状態だった約5676平方メートル(登記上。実際は、2ヘクタール程)の山を借りる事ができたので、最初は夫婦二人で、パイオニアツリー等の伐採をした。この広大な山を借りる事で、ウルシの木だけでなく、資源が枯渇している木工に使う木や、地域振興に資する木も育てたいという夢が広がった。やがて、任意団体を19名でスタートさせた。県の森づくりボランティア推進事業の補助や輪島漆再生プロジェクト実行委員会、社会福祉法人佛子園 輪島kabulet等の支援も受け、伐採、土壌改良、地帯えを会員やボランティアと共に行った。

2017年3月、ウルシの苗約220本、マアテ約12本、えびすケヤキ3本、ケヤキの苗約20本を植えたほか、サクラ、ウメ、カキ、クリ、カリン等の苗木も植えた。また、その他の様々な木も種からコンテナ苗に育て、早いものは2年目の活動で、2018年3月に山に植える事ができた。コナラ、クヌギ、オニグルミ、スダジイ、シラカシ、トチ、ミズメ、イタヤカエデ、ブナ、ムクノキ、ヒノキ、スギ、キリ、ホオノキ、タラノキ等を育てている。「ウルシや漆器の森」を整備した事で、国内や国外から観光客を迎える際、原材料の木を育てている山、それを加工する職人の工房、できあがった漆器や木製品、という漆の里の一連の流れを見せる事ができるようになった。会の活動をブログに投稿し、会員や賛助会員を募った結果、会員は約50名まで増えた。また、ウルシ染めの活動をしている染色家からの支援も受けている。



活動内容

ウルシの木から樹液である漆が採取できるようになる約10年後から15年後まで、草刈り等の森の維持管理を継続していく。生産量は少ないが、漆掻きが活動できる場所を作り、ウルシの苗等を育てる技術、漆掻きの技術を次の世代に受け継ぐ事等を着実に進行。2018年度は、果樹が若木に生長したので、剪定の講習会を県の支援を受けながら開く事ができ、地域の人にも楽しんでいただく事ができた。今までウルシしか知らなかったが、様々な木を実際に育てる事で、多くの事を学んでいる。

また、金継ぎ・摺り漆教室も6回開き、初心者に漆の扱い方を教えると同時に、森づくりの大切さを訴え、苗を配布し、育てる事に協力してもらった。来年度以降、木と漆で、林産加工物を作る予定である。いずれ、収穫できた漆で輪島ブランドの漆器を作る事になるが、世界の様々な天然の素材を使った伝統的な工芸の勉強会を重ね、新たな視点で漆器や木工品を作り出したいと思っている。

また、里山振興も目標にしており、フィールドを生かしたイベント等も開催したいと思っている。そして、自然と調和の取れた心の豊かな暮らしを目指したいと思っている。

お問い合わせ先			
氏名	塩多 朋子	所属	輪島漆「集いの森」
住所	〒928-0014 石川県輪島市山ノ上町ソ部39番地		
電話	080-8698-7916	F A X	0768-23-0739
E-mail	shioda@eos.ocn.ne.jp	H P	http://tsudoinomori.tsudoinomori.link/

株式会社白山瀬波



豊かな自然を活かし、元気あふれたまちづくり

設立の背景・目的

白山市瀬波(旧吉野谷村)地区は、県内でも有数の豪雪地帯で、近年過疎化と高齢化が著しく、地域の活力は急速に衰えつつある地域となっています。このような環境において、平成27年10月、金沢市に本社がある株式会社中央設計技術研究所と地元有志からの支援を得て、瀬波地区にある豊富な自然に恵まれた山林等を活用した地域活性化活動を行い、将来的には白山麓全域での活動を目的に設立された企業です。尚、株式会社中央設計技術研究所は平成29年「いしかわ版里山づくりISO」の認証を受け里山保全に取り組んでいます。



オンソリ山から見た霊峰白山

活動内容

当社及び地元有志を中心とした、地域活動団体「白山瀬波の会」は設立以来、国、石川県、白山市からの支援を得て里山保全とその周辺整備の活動を幅広く行っています。活動内容として、清流瀬波川に棲み今では数少ない、ゴリの放流や、これまで、営業を停止してきた瀬波川キャンプ場の再生を支援する傍ら、約半世紀前までは地域の基幹産業であった炭焼きの復活に取り組んでいます。また、約20年間廃道となっていた地元にある登山道を3年間にわたり整備した活動が、昨年8月、山と渓谷社発行「石川県の山」に修験道の史跡が残る白山眺望の山、笈山、オンソリ山として掲載され、登山者の注目を集めています。オンソリ山では、長年閉ざされていた修験者が集った拝所の遺跡(ウマヤノツボ)までの整備や、雑木伐採等の作業で出現したカタクリ群生地は、登山者の間から、日本有数の規模(約5ha)と言われ、絶滅危惧種にもリストアップされている「春の妖精」カタクリを見ることができ、訪れる人々を魅了しています。



カタクリ群生地を訪れる登山者



登山道整備を行う参加者

活動の実績と今後

これまでの活動を通じて、地域に忘れられた有用な自然や文化等を再発掘することにより、僅かながらでも地域に活力をもたらすことが出来ることを学びました。これまでもこれらの活動は、多くの団体や個人の方々の支援や協力があって成り遂げたものであり、結果として3年間の活動が、メディアや出版物等を通じて、当地が数多く紹介されたことで、地区への交流人口も増え、一応の目的を果たせたと考えています。今後も、里山保全・整備への取り組みが、地域に活力を取り戻すことのみにとどまらず、近年多発する自然災害にも効果があると考え、引き続き周辺の環境整備を行っていきたくと考えています。

お問い合わせ先			
氏名	廣崎 邦夫(事業本部長)	所属	株式会社白山瀬波
住所	〒920-2323 石川県白山市瀬波子19番地5		
電話	076-255-5288	F A X	076-255-5289
E-mail	h-senami@asagaotv.ne.jp	H P	http://www.hakusansenami.jp/

「知・育・活」の実践を通し魅力ある里山づくりを目指して

こまつSATOYAMA協議会の発足と活動

こまつSATOYAMA協議会は、地元に残る地域資源を活かした地域づくりに取り組んでいる団体を有機的に連携させ、里山資源の保全や地域振興を目的に平成22年8月に発足しました。当協議会は「知:地域資源の理解を深める活動 育:人材の育成に関する活動 活:地域の魅力を増大する活動」をスローガンに日々活動に取り組んでいます。

協議会加盟団体と活動内容

こまつSATOYAMA協議会は市内里山の14の地区から構成される団体です。地区毎に里山資源の保全活動や里山体験活動に積極的に取り組んでいます。その中でも、文化庁より日本遺産の認定を受けた「珠玉と歩む物語」の構成資源である、滝ヶ原石や5つのアーチ型石橋が存在する滝ヶ原町では、住民一丸となって、資源を活かすための活動を行っています。他にも、当地区には、閉校した那谷小学校滝ヶ原分校及び滝ヶ原保育所を再利用し「里山自然学校こまつ滝ヶ原」を開講し、「塾活動」を展開し、「里山」への興味・関心呼び起こしています。



里山自然学校こまつ滝ヶ原

子ども達が自然と触れ合える機会を創出

こまつSATOYAMA協議会は、「里山自然学校こまつ滝ヶ原」を拠点に、子ども達が自然と触れ合える機会を提供しています。那谷地区滝ヶ原町にある「鞍掛山トンボの楽園」には、ハッチョウトンボやホトケドジョウが生息し、県内大学の研究フィールドとして活用されています。他にも市内保育所と連携し、園児と生物とのふれあいの場を創出しています。

地元の方々をはじめ協議会会員が「鞍掛山トンボの楽園」などの貴重なフィールドを保全するためにも、定期的に整備活動を行っています。他にも西尾地区の西俣町では、「西俣キャンプ場」を活用し、キャンプ初心者親子を対象としたキャンプ体験を開催したり、加盟地区毎に自然と触れ合える機会を提供しています。



里山体験交流塾によるトンボの楽園観察会の様子

お問い合わせ先

氏名	こまつSATOYAMA協議会 事務局		
住所	〒923-0335 石川県小松市滝ヶ原町ウ20番地 里山自然学校こまつ滝ヶ原 (〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地 小松市農林水産課内)		
電話	0761-65-2436 (0761-24-8078)	F A X	0761-65-2436 (0761-23-6402)
E-mail	k-oukoku@city.komatsu.lg.jp	H P	http://satoyama-komatsu.com/satoyama.html

きらめ樹間伐・自然米・海岸清掃と子ども恵みの里づくり

(A) きらめ樹間伐と子ども恵みの里づくり

里山の多くは間伐されないまま、年老いていこうとしています。密植のまま、細長く、根張りも小さく、大風、大雨に弱い状態です。世代交替も進まず、いつか一斉に倒木してしまう危険をはらんでいます。

「きらめ樹間伐」は4~8月に皮をむき上げ、立ち枯れさせます。だれもが手軽に安全に作業できます。葉がなくなれば、伐倒しなくても陽が差し込み、伐倒間伐と同じ効果を生み、健全化していきます。里山の恵みを取り戻し、豊かな自然を残しましょう。

皮をむき上げた所は虫が付かず腐りません。3年ほど放置すれば重量が半減し、用材として容易に安全に伐倒できます。きらめ樹材を利用して、栈橋や海プールやツリーハウスや象の家などを作ろうと思っています。

災害から地域を守り、里山も豊かにする「きらめ樹間伐」にご協力ください。



お父さんと小学2年生

栈橋(2階建)計画図

小学5年生

(B) 自然米栽培と耕作放棄田利用で田んぼの生きもの保全

耕作放棄田のヨシを刈り取り、水を張っておき、田んぼ表面を柔らかくします。そのまま耕さずに、田植えします。ヨシを抑え、稲が育ちます。

耕作放棄田を借り受け、自然米栽培(不耕起、無除草剤、無農薬、無化学肥料、冬季湛水)で生きものにやさしい米づくりを子どもと一緒にやってみませんか?



耕作放棄田のヨシ原状態

ヨシを刈り取り、水を張っておく

耕さずに田植機で苗を植える

稲が生育している

(C) 海岸プラスチックごみ等の清掃と遊歩道整備

海岸プラスチックごみ等は潮流の加減で特定の場所に集まってきます。劣化して、細分化が進み、回収困難な状態になって堆積しています。マイクロプラスチック化して、魚介類が食べ、人間をも害するようになるおそれがあります。

海岸清掃ボランティアに参加、ご協力ください。



宮之浜の清掃活動 H30.10.14

細分化して堆積 H28.10

お問い合わせ先

氏名	出村 光彦	所属	万葉の里山づくり友の会
住所	〒929-2218 石川県七尾市中島町瀬嵐く部45		
電話	0767-66-1556	F A X	0767-66-1556
E-mail	demura@po3.nsknet.or.jp		

ドコモの自然環境保護活動

活動内容

NTTドコモは、森林整備活動や海岸清掃などを通じて、自然環境保護活動に取り組んでいます。1999年から自然環境保護活動の一環として、全国で「ドコモの森」づくりを推進し、47都道府県で49か所、北陸では石川県小松市、富山県南砺市、福井県勝山市の3か所で開設し、毎年社員とその家族による森林整備活動を実施しています。

石川県における活動内容

①「ドコモこまつの森」森林整備活動

石川県では、2001年から「ドコモの森」整備活動を開始し、現在は2017年2月に小松市に新たに開設した「ドコモこまつの森」で毎年整備活動を行っています。活動には社員とその家族が、サポートしていただける南加賀農林総合事務所、小松市役所、かが森林組合のご指導の下、下刈りなどに取り組んでいます。



②「クリーン・ビーチいしかわ」清掃活動

石川の海岸線を清掃する海岸愛護活動「クリーン・ビーチいしかわ」に、社員とその家族などが2004年から毎年、ボランティアとして参加しています。2018年は約240名が参加し、金沢近郊の海岸線約1kmを清掃しました。



お問い合わせ先

氏名	塚本 達彦	所属	株式会社NTTドコモ北陸支社 企画総務部 広報室
住所	〒920-8202 石川県金沢市西都1-5		
電話	076-225-2005(代表)		
	H P	https://www.nttdocomo.co.jp/	

いしかわ版里山づくりISO認証団体(H30.12.26現在)

認証番号	組織名称	所在市町	認証番号	組織名称	所在市町
1	のと共栄信用金庫	七尾市	48	株式会社 ゆめまき	かほく市
2	加賀白山麓観光ネットワーク協同組合	小松市	49	鶴来信用金庫	白山市
3	能美の里山ファン倶楽部	能美市	50	小松市立那谷小学校	小松市
4	いしかわり山保全活動リーダー会	金沢市	51	白山市立白嶺小学校	白山市
5	公益社団法人 金沢こころの電話	金沢市	52	株式会社 上野組	輪島市
6	環八会	金沢市	53	森林公園地域振興会・金沢森林組合エコグループ	津幡町
7	石川県立翠星高等学校	白山市	54	社会福祉法人 愛里集福社会	金沢市
9	イオンリテール株式会社 近畿北陸カンパニー北陸事業部	白山市	55	能登にトキとコウノトリを呼ぶ会	珠洲市
10	株式会社 北國銀行	金沢市	56	TOTO 株式会社 北陸支社	金沢市
12	特定非営利活動法人 39アース	金沢市	57	金沢市立森本小学校	金沢市
13	一般社団法人 語り部協会	能美市	59	美川自然クラブ	白山市
14	石川フォレストサポーター会	金沢市	60	特定非営利活動法人 e-cycle	金沢市
15	木滑里山保全プロジェクト	白山市	61	輪島市立三井小学校	輪島市
16	能登建設株式会社	珠洲市	63	金沢テクノパーク連絡会	金沢市
18	ウッドランドファーム	羽咋市	64	有限会社 花座	金沢市
19	金沢ふるさと愛山会	金沢市	65	特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所	津幡町
20	コマツ粟津工場	小松市	67	株式会社 フタキ鉄工	白山市
21	滝ヶ原町鞍掛山を愛する会	小松市	68	株式会社 浅野太鼓楽器店	白山市
22	特定非営利活動法人 くくのち	金沢市	69	株式会社 国土開発センター	金沢市
23	株式会社 北陸環境サービス	金沢市	70	みづほ工業 株式会社	金沢市
24	東レ 株式会社 石川工場	能美市	71	株式会社 田中建設	能美市
27	加賀市立三谷小学校	加賀市	72	株式会社 玉家建設	金沢市
28	公益社団法人 石川の森づくり推進協会	金沢市	73	特定非営利活動法人 日本中国朱鷺保護協会	羽咋市
29	白山麓びなもり自然塾	白山市	75	北陸信用金庫	金沢市
30	特定非営利活動法人 いしかわ農林水産サポートネット	金沢市	76	株式会社 スギヨファーム	七尾市
31	株式会社 日本海コンサルタント	金沢市	77	興能信用金庫	能登町
32	山中温泉ひがしたに地区保存会	加賀市	79	山崎農園	七尾市
33	中部地下開発 株式会社	金沢市	82	新崎・志ヶ浦地区里海里山推進協議会	穴水町
34	株式会社 ホクコク地水	金沢市	83	加賀東芝エレクトロニクス 株式会社	能美市
35	金蔵集落	輪島市	84	株式会社 橋本確文堂	金沢市
36	加賀林業研究グループ	加賀市	85	河北郡林業研究会	津幡町
37	夕日寺自然体験実行委員会	金沢市	86	「風土記の社」づくりの会	加賀市
39	小倉建設 株式会社	羽咋市	88	特定非営利活動法人 世界の砂漠を緑で包む会	金沢市
40	特定非営利活動法人 森林環境保全・里山物語	金沢市	89	石川県退職者連合	金沢市
41	輪島市林業研究グループ	輪島市	90	オダケホーム安心の森づくりクラブ	金沢市
42	石川県立七尾東雲高等学校	七尾市	91	金沢星稷大学	金沢市
43	春蘭の里実行委員会	能登町	92	キリンビール株式会社 北陸支社	金沢市
46	一般財団法人 きんしん環境財団	金沢市	95	ジェイ・バス 株式会社	小松市
47	特定非営利活動法人 能登半島おらっちゃん里山里海	珠洲市	96	鴨池観察館友の会	加賀市
			99	能登新人の会	七尾市

いしかわ版里山づくりISO認証団体 (H30.12.26現在)

認証番号	組織名称	所在市町	認証番号	組織名称	所在市町
100	アサヒビール 株式会社 北陸統括本部	金沢市	156	寺井建設株式会社	志賀町
103	津幡町立英田小学校	津幡町	157	山崎製パン株式会社 名古屋工場	県外
104	株式会社ジャパンディスプレイ	川北町	158	柳田建設株式会社	能登町
105	株式会社 神子の里	羽咋市	159	西谷内集落	七尾市
106	三谷地区活性化推進協議会	加賀市	160	株式会社 工藤工務店	穴水町
107	金沢赤とんぼ童謡唱歌愛唱会	金沢市	161	まちなか里山公園づくりの会	七尾市
108	能登島自然の里ながさき	七尾市	162	株式会社 山一	穴水町
110	石川県立津幡高等学校	津幡町	163	津幡町職員互助会あけぼの会	津幡町
111	株式会社 御祓川	七尾市	164	手取川宮竹用水土地改良区	能美市
112	株式会社 環境日本海サービス公社	七尾市	165	能登町立小木中学校	能登町
113	農事組合法人 能登ふれあいガーデン	能登町	166	atetote	金沢市
116	株式会社 環境公害研究センター	金沢市	167	奥能登原木しいたけ活性化協議会	穴水町
117	有限会社 北海道ワイン能登ヴィンヤード	穴水町	171	七尾市立石崎小学校	七尾市
118	粟津村おこし推進協議会	珠洲市	172	七尾市立田鶴浜小学校	七尾市
119	富士通株式会社 北陸支社	金沢市	173	七尾市立和倉小学校	七尾市
122	石川県立能登高等学校	能登町	174	七尾市立中島小学校	七尾市
123	株式会社 奥能登塩田村	珠洲市	177	七尾市立天神山小学校	七尾市
124	株式会社 OkuruSky	穴水町	178	七尾市立山王小学校	七尾市
125	鉤打ふるさとづくり協議会	七尾市	179	七尾市立東湊小学校	七尾市
130	奥能登棚田ネットワーク協議会	珠洲市	180	七尾市立小丸山小学校	七尾市
132	日用苔の里整備推進協議会	小松市	182	七尾市立能登島小学校	七尾市
133	はるきの里保全の会	中能登町	183	石川・松任健康の里	白山市
134	株式会社 門前グリーンパーク	輪島市	185	株式会社G-VOICE	金沢市
135	手取川七ヶ用水土地改良区	白山市	187	石川県立輪島高等学校(定時制)	輪島市
137	カナン株式会社	小松市	188	特定非営利活動法人みらいプロジェクト	金沢市
140	南建設株式会社	志賀町	189	小松市立木場小学校	小松市
141	株式会社北都組	金沢市	190	米沢電気グループ経営者会議	金沢市
142	一般財団法人muddef	県外	191	能登棚田保全活動協議会	穴水町
143	岩井戸地区振興協議会	能登町	192	白山しらみね薪の会	白山市
144	北陸学院大学 フィールドスタディ地域福祉プログラム	金沢市	193	木場潟再生プロジェクト	小松市
145	ユニー株式会社 北陸営業部	金沢市	194	株式会社吉岡機販	金沢市
146	日本郵便株式会社能登地区連絡会	珠洲市	196	白山市立鳥越小学校	白山市
147	北陸積水樹脂株式会社	能美市	197	高松紋平柿生産組合	かほく市
148	渡津ホテル保存会	白山市	199	特定非営利活動法人角間里山みらい	金沢市
149	株式会社ハクイ村田製作所	羽咋市	200	能登ふぐ事業協同組合	七尾市
150	浅地高周波株式会社	金沢市	202	竹腰永井建設株式会社	白山市
151	株式会社 石川コンピュータ・センター	金沢市	203	大和ハウス工業株式会社金沢支社	金沢市
152	石川県立穴水高等学校	穴水町	204	かほく市立大海小学校	かほく市
153	株式会社 金沢ジャーマンペーカー	金沢市	205	株式会社富士通ITプロダクツ	かほく市
154	田岸里山里海倶楽部	七尾市	207	株式会社PFU	かほく市
155	株式会社 寺田鉄工建設	小松市	208	鶴来谷林業研究会	白山市
			209	合同会社輝け白山	白山市

いしかわ版里山づくりISO認証団体 (H30.12.26現在)

認証番号	組織名称	所在市町	認証番号	組織名称	所在市町
210	若緑を守り育む会	かほく市	265	石川県立大聖寺高等学校	加賀市
211	株式会社エオネックス	金沢市	266	能美市立瀧野小学校	能美市
212	大福寺集落	志賀町	267	能美市立辰口中央小学校	能美市
213	能登町立能都中学校	能登町	268	能美市立福岡小学校	能美市
214	株式会社アルプ	金沢市	269	かほく市立金津小学校	かほく市
216	ダンロップタイヤ北陸株式会社	金沢市	270	高坂・根上町緑を守る会	能美市
217	石川サンケン株式会社	志賀町	271	特定非営利活動法人 ネイチャープロジェクト白山	金沢市
218	サンケンオプトプロダクツ株式会社	志賀町	272	株式会社ロードマネジメント	金沢市
220	灯岩そうせい会	能美市	273	かが里山里海しぜん楽校	加賀市
221	環境開発株式会社	金沢市	274	もりらバー林業女子会@石川	金沢市
222	株式会社白峰産業	白山市	275	トントウの森	金沢市
223	津幡町立太白台小学校	津幡町	276	輪島市立南志見小学校	輪島市
224	株式会社 滝川組	津幡町	277	珠洲市立上戸小学校	珠洲市
225	アロマの里@獅子吼	白山市	278	輪島市立鶴巣小学校	輪島市
226	輪島親子昆虫クラブ	輪島市	279	珠洲市立若山小学校	珠洲市
227	株式会社くさのね	白山市	280	珠洲市立飯田小学校	珠洲市
228	株式会社Design of JPN	金沢市	281	珠洲市立宝立小中学校	珠洲市
229	まるやま組	輪島市	282	株式会社中央設計技術研究所	金沢市
231	七尾市御祓公民館	七尾市	283	株式会社白山瀬波	白山市
235	七尾市里山里海協議会	七尾市	284	能登里山里海マイスターネットワーク	珠洲市
237	七尾市西湊地区地域づくり協議会	七尾市	285	珠洲市立直小学校	珠洲市
239	熊木公民館くまき里山愛好会	七尾市	286	イノシシから田畑を守る辰巳の会	金沢市
241	YBU13クラブ	七尾市	287	こまつSATOYAMA協議会	小松市
242	和倉地区地域づくり協議会	七尾市	288	木づかい運動推進プロジェクト	白山市
243	和倉地区連合町内会	七尾市	289	石川県森林環境保全研究会	志賀町
247	矢田郷地区まちづくり協議会	七尾市	290	万葉の里山づくり友の会	七尾市
248	七尾城まつり実行委員会	七尾市	291	金沢市立緑中学校	金沢市
250	imaima・	白山市	292	北陸コカ・コーラボトリング株式会社	県外
251	輪島市立東陽中学校	輪島市	293	野々市ロータリークラブ	野々市市
252	石川県立門前高等学校	輪島市	294	石川県立大学環境科学科	野々市市
253	岳(よろこび)	金沢市	295	株式会社NTTDocomo北陸支社	金沢市
254	株式会社なぎさエリアマネジメント	穴水町	296	七尾市立朝日小学校	七尾市
255	えんなか合同会社	穴水町	297	NPOみんなの畑の会	金沢市
256	東田電機工業株式会社	津幡町	298	合同会社山立会	白山市
257	能美市立和気小学校	能美市	299	中能登町立鹿西小学校	中能登町
258	蓮の会	七尾市	300	中能登町立鹿島小学校	中能登町
259	能登里山クラブ 岩穴	七尾市			
260	小松市立犬丸小学校	小松市			
261	羽咋市千里浜町会	羽咋市			
262	自然栽培の里@のと	七尾市			
263	輪島漆「集いの森」	輪島市			
264	小松市立粟津小学校	小松市			